

令和8年9月1日発行（第203号）

こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



～地域農業を学ぶ～

農業大学校生と地域農業関係者との懇談会を開催しました

宮古農業改良普及センターでは、7月27日に、**岩手県立農業大学校と連携**し、農大生を対象とした**地域農業関係者との懇談会**を開催しました。

当日は、3名の学生が参加し、**岩泉町の花き経営体と酪農経営体**を視察した後、懇談会を行いました。花き経営体の**阿部栄一氏**の圃場では、スプレー菊の栽培管理や花きと果樹の複合経営について、酪農経営体の**山屋祐太氏**の牧場では、飼養管理や第三者継承による就農について説明いただきました。その後の懇談会には、視察先の阿部氏、山屋氏に加え、岩泉町の若手酪農家である**工藤淳平氏**にも参加いただき、農業経営の魅力や苦勞、将来の進路を考えるうえでのアドバイス等をいただいたほか、市町や農協等の関係機関から就農支援制度の紹介が行われました。

参加した学生からは、「就農前に**様々な経験を積みたい**と思った」「**多くの方の話を聞いて良かった**」といった感想が述べられ、有意義な懇談会となったことが伺えました。普及センターでは、今後も関係機関・団体と連携しながら、農大生の学びと就農を支援していきます。



【担当：昆野農普】

POPづくりで進む店内改善と売場のにぎわい

～産地直売所が取り組む売上向上作戦～

宮古市の道の駅たろう内にある「**産直とれたろう**」では、7月29日の閉店後、店舗スタッフや出荷組合員を対象とした**POP勉強会**を開催しました。

とれたろうは移転を機に旧「産直やませの丘」から愛称を改め、**地元産の農産物・海産物・加工品・土産品**など幅広い商品を扱っており、多くの地域住民や観光客が訪れています。令和8年度は売上向上に取り組んでおり、表示やPOPが不足する店内の改善を目的に、POPの充実を図るものです。

勉強会では、**株式会社マイルストーンの工藤めぐみ氏**からPOPが売場で果たす役割や効果的な表現方法について講義いただき、後半は実際に掲示を想定したPOP作成に取り組みました。完成したPOPは一つずつ紹介され、良い点を褒めてもらったり具体的な助言を受けたりする場面がありました。参加者同士でも学びがあり、会場は終始和やかで活気のある勉強会となりました。翌日から**掲示されたPOPは来店たびに増えており、開催の効果が確実に表れています。**

普及センターでは、今後も産地直売所の運営支援を通じて生産者の所得向上を図るとともに、生産者と消費者の交流や地域食材の発信を促進していきます。

【担当：藤原上席農普】



就農への第一歩をサポート ～第1回宮古地方ワンストップ就農相談会を開催～

7月16日(木)、宮古地区合同庁舎において「第1回宮古地方ワンストップ就農相談会」を開催しました。当日は、山田町から1名、田野畑村から1名(オンライン開催)の参加があり、各町村、各町村農業委員会、JA、宮古農林振興センター、宮古農業改良普及センターの担当者が相談に対応しました。

相談会では、栽培品目の選定や初期投資に要する費用、新規就農に向けた研修、各種支援制度などについて質問が寄せられ、関係機関の担当者が情報提供を行いました。また、地域の栽培品目や出荷先、栽培時期など就農に役立つ具体的な助言も行いました。

なお、第2回から第6回までの相談会を9月から12月及び2月の第3木曜日に開催します。農業に興味のある方や就農を検討されている方が身近にいらっしゃいましたら、ぜひお声がけください。



○申し込み・お問い合わせ先

宮古地方農業振興協議会 担い手部会事務局(宮古農業改良普及センター内)

電話:0193-64-2220 FAX:0193-64-5631 Email:CE0024@pref.iwate.jp

【担当:澤田(葵)農普】

炎天下で、岩手県畜産共進会出品牛が決定!! ～第37回宮古地方日本短角種共進会開催～

8月6日、第37回宮古地方日本短角種共進会が、岩泉町の「乙茂おでんせ広場」を会場に開催されました。9月に開催される岩手県畜産共進会への地方選抜会として位置づけられた本共進会では、3部門に37頭が出品され、発育や均称、品位等の項目で審査が行われました。共進会当日は30℃を優に超える暑さで、炎天下の審査で牛も人も大変でした。細霧噴出器などを活用して暑さ対策をしていましたが、後半は日陰(つなぎ場)での審査に変更して実施しました。

各部門の優秀賞(1位)を受賞した牛の中から、岩泉町の佐々木和時美氏が出品した「ひめこと」が最優秀賞を受賞しました。「ひめこと」を含む入賞牛15頭と事前審査で選抜された群出品牛が、県大会へ出品されることとなり、活躍が期待されます。

普及センターでは、日本短角種生産者・関係機関と共に、日本短角種の生産振興に取り組んでいきます。



【担当:澤田(建)主査農普】

～ 岩手県「食の匠」の技 動画で公開中 ～

岩手県公式動画チャンネル(<https://www.youtube.com/@prefiwate>)において、岩手県食の匠による調理動画を公開しています。



鮭の親子ずし



豆すつとぎ



縄文まんじゅう



新規栽培者向け圃場見学会

当センターでは、7月9日に野菜品目の新規栽培希望者や新規就農希望者を対象に、野菜生産現場への理解醸成を図り、新規栽培者拡大につなげることを目的として、「**新規栽培者向け圃場見学会**」を宮古市刈屋で開催しました。

見学会には、**4名の方が参加**しました。管内の主力品目である「**ブロッコリー**」、「**きゅうり**」、「**ピーマン**」について、当センターから栽培概要を説明した後、実際に**圃場を見学**しました。生産者である**久保田智治氏**からは、各品目の栽培方法や栽培を始めるうえでの留意点について説明をいただきました。

参加者からは、栽培方法や農業経営について久保田さんや関係機関へ積極的に質問が出され、また、「**実際に栽培の様子を見ることができて参考になった**」という声がありました。

当センターでは、今後も生産者や関係機関と連携し、新規栽培者の確保に向けて取り組んでいきます。



【担当:熊谷技師】

きゅうり圃場巡回

8月に入り栽培後半となってくるきゅうり栽培について、今後の栽培管理の改善を目的として、管内の**きゅうりの圃場巡回**が8月3～4日にかけて開催されました。JAと普及センターで計**13か所の圃場**の巡回を行い、田代地区では、生産者の方も一緒に巡回を行いました。

今年は**梅雨期間も長く、日照が少ない日が続いたため**、近年続いていた夏季高温の状況と異なり、**生育量が少なく**、どの圃場でも**栽培管理には苦慮している状況**でした。

降雨も多く、薬剤散布も難しい状況でしたが、多くの圃場で**病害虫の発生はしっかりと抑えられていました**。

梅雨明け後の気象に応じた栽培管理について、今後の収量増に向けて、再度確認を行いました。

当センターでは、今後も生産安定に向けた支援を行っています。

【担当:松浦(拓)上席農普】



～ 台風対策は万全に！ ～

- ☑ 台風**に備えて事前の対策**を行い、被害防止・軽減に努めましょう。
- ☑ 台風の接近中は、**人命第一**の観点から、圃場の**見回り**は**行わない**てください。
- ☑ 大雨・強風が**おさまった後の見回り**も、増水した水路やその他の**危険な場所**には**近づかず**、足下等の圃場**周辺**の安全に十分に注意してください。

※作物ごとの対策はHPを参照のこと

(<https://www.pref.iwate.jp/aqri/i-aqri/technical/index.html>)

水稻の適期刈取について

- ・7月下旬は気温が上がらず今年の**出穂期は8月3～7日**と直近5年平均より**1～5日遅く**なりました。
- ・気象庁によると8月下旬～9月中旬の**気温は平年より高い見込み**です(8/20時点)。

以下の表を参考に安全に気を付けつつ、適期刈取に努めましょう。

※ 早刈りは収量の低下や青米・未熟粒の増加、刈遅れは胴割粒・茶米等の増加に繋がります。

※ 最終的な刈取判断はテスト籾摺を実施しましょう。

表 各市町村の出穂期と積算気温 950℃到達見込み※1

市町村	出穂期※2		積算気温 950℃到達※3			
	本年(平年差)	R3～7 平均	平年並みの 気温の場合	平年+2℃の 気温の場合	平年+4℃の 気温の場合	R3～7 平均
宮古市	8/7(+4)	8/3	9/21	9/18	9/15	9/13
山田町	8/5(+1)	8/4	9/21	9/18	9/15	9/13
岩泉町	8/3(+3)	7/31	9/20	9/17	9/15	9/11
田野畑村※4	8/6(+5)	8/1	9/22	9/19	9/16	9/12

※1 主な品種の積算気温による刈取適期の目安は、銀河のしずく:950～1,050℃、あきたこまち:950～1,100℃、ひとめぼれ:900～1,050℃

※2 出穂期は、品種を区分せず、直播も含めた達観調査の結果

※3 積算気温は出穂期の翌日から8月20日まではアメダスデータ、それ以降は各アメダスデータの平年値を基に積算したもの。

※4 観測地点の都合上、岩泉町小本地区のデータを活用。

【担当:川原田技師】

9月15日から11月15日は秋の農作業安全月間です！

稲刈りなど**収穫の最盛期**を迎えるこの時期は、**農作業事故の危険性が高くなる時期**でもあります。

農作業中の死亡事故件数は、近年減少傾向にありましたが、2024年に増加に転じ、10万人あたりの件数では、**建設業の3倍、交通事故の7倍**となっています。**農業機械による死亡事故が最も多く**、なかでも**トラクターによるものが最多**となっています。油断せず、安全確認を行ってください。

・**ヘルメット、シートベルト**を必ず装着しましょう。

・**安全フレーム**が装着されたものを使用し、しっかり立てた状態で走行しましょう。

・**危険個所を確認**し、目印を付ける、草を刈って見やすくする等の**対策**をしましょう。

・狭い道は迂回するか、幅員を確保しましょう。**ブレーキペダルを連結**し、カーブのある道は**徐行運転**をしてください。

なお、令和9年1月1日以降に製造されたトラクターは、**シートベルトの着用が義務化**されます。**製造日に関わらず、着用を徹底**しましょう。



【担当:松浦(文)技師】

(編集後記)

今月号は、圃場巡回、圃場見学会など実際の現場に出向いて開催されたイベントを多めにお送りしました。実りの秋に向けて農作業安全にお気をつけください。

さて、今年こそは盆が過ぎれば涼しくなると期待しましたが、これを書いているときもとても**暑い**です。ともあれ次号には涼しくなると思いますが、寒暖差に気を付けて過ごしましょう。(澤田(建))